

ライブストリーミングを楽しむ(13)  
—佐渡裕アルプス交響曲有料ライブ配信—

1. 始めに

兵庫芸術文化センター管弦楽団「佐渡 裕 アルプス交響曲」有料ライブ配信の案内がありましたので視聴しました。

2. ライブストリーミング情報入手源と PC および使用機器環境

関連サイトの情報は以下のとおりです。

9月19日(土)・20日(日)に兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホールにて開催される兵庫芸術文化センター管弦楽団「佐渡 裕 アルプス交響曲」につきまして、9月20日(日)公演を有料ライブ配信することが決定いたしました。KOBELCO 大ホールの4面舞台を活かし、約120名の奏者がお届けする圧巻の演奏を、臨場感あふれる映像にてお楽しみください。

■公演情報

兵庫芸術文化センター管弦楽団 佐渡 裕 アルプス交響曲

開催日：2020年9月19日(土)・20日(日) 各日 2:00PM 開演

※公演時間：約60分(休憩なし)

指揮・芸術監督：佐渡 裕

演奏：兵庫芸術文化センター管弦楽団

配信は、e-plus に外注されており、e-plus の新規登録から始めなければならず、登録、申し込み、受け取り条件、支払い条件などが分かりにくく、芸術文化センターに問い合わせることになり、BPODCH や OTTAVA TV のウイーン国立歌劇場の洗練された手順に比べ、システム設計上の面倒さが気になりました。また、別の PC で諸手続きを行い、音楽用 PC やタブレットで観賞しようとする、BPODCH や OTTAVA TV と違って、いちいち別のところからアクセスがあったとの注意が入ります。

PC はいつもの音楽用 PC です。今回から、バランスアナログアキュライザーが信号ラインに加わっています。

3. ライブストリーミングの経過

最初に佐渡裕からアルプス交響曲の解説があり、演奏再開に至る経過や特殊楽器の説明があつてから演奏が始まり、画像も音も安定して視聴できました。

120名の大編成は、下掲の写真のように距離をとりながらの苦心の団員の配置で客

席も間引きされています。トロンボーンやトランペットやホルンの奏者が客席から演奏することもあり、山彦を感じさせる演出もありました。

画質は鮮明で全景から懸命に演奏する若い団員のアップまでカメラワークが巧みです。拍手から始まって演奏の音まで通いなれたホールの印象を再現しています。

1週間はアーカイブの配信もあり、翌日、CDやBPODCHと聴き比べてみましたが、音質はライブ配信フォーマットの限界からか、アッシュケナージ指揮クリーブランド管弦楽団のCDや2018年ハーディング指揮のBPODCHより若干劣ります。これらとくらべて演奏技量はともかくとして、若い団員がこの大曲をよく頑張っているという印象です。

締めくくりにも佐渡裕の復習の曲の解説がありました。





#### 4. まとめ

音質は配信のフォーマットの限界がありますが、通いなれたホールのライブ感は十分出ています。演奏会開催ができない間、こういった企画で演奏家と音楽愛好家を繋ぐ手段としてあってもいいと思われれます。コロナ禍の下での安全を確保しながらの大編成のオーケストラ演奏の試み、ならびにそのライブ配信としては、成功したと言えると思います。

以上